

防災を考える 広報げろ 2013.09

防災を考える

防災の日を迎え地域の救急、災害における病院の役割について考えてみましょう。

当地域では救急車を呼んだ場合、平均到着時間は約 6 分で、これは全国的にも同じような状態です。金山病院では原則として救急車の受け入れは拒否していませんが次のような場合は受け入れできません。急性期の脳梗塞が強く疑われる場合は急性期の専門治療が必要なために下呂病院脳神経外科に直接搬送を指示しています。お産は専門外で対応できません。全身麻酔手術中は受け入れできないことがあります。学会などで外科医がいないときは、交通事故などによる高エネルギー外傷は受け入れできません。また、個室が満床で重症患者に対応できないときは救急車搬送による受け入れをお断りしています。

下呂市立金山病院は免震構造を持つ病院として新築されました。新病院の防災面での地域の期待も大きいと思います。免震構造とは直下型の地震が起きたときに建物の中の人や設備を守るものです。

ところが、人命や、機械を破壊から守ることは出来ても診療が出来るかは別問題です。病院の診療にはマンパワー、水道、電気等のインフラが無事であることが必用です。重要な診療機器を動かすための非常用電源は長くは持ちこたえられません(過去 20 年間、半日以上以上の停電は病院では経験していません)。厨房はオール電化のため停電すれば食事の提供が出来ません。生命の維持に必用な人工透析は多くの水を必用としますがこれは市の上水道に頼っています。診療に必用な薬品や物品は入院患者用の備蓄が数日間あるのみで、外来診療における注射薬の備蓄はなく、内服薬は院外薬局に頼っています。

外来診療においては救急患者の受け入れが大変厳しい状況となるでしょう。これは現在でも同じ状況ですが、下呂市では病院設備が無事であっても治療には大きな制限があります。全身麻酔が必用な手術は下呂病院、金山病院でそれぞれ同時に二件以上は行えません。設備があったとしてもマンパワーが足りない。手術や外来診療に必用な注射薬などの備蓄はありません。現在のところ経営的な理由で使った物品のみが補充される体制をとっているからです。

災害時の病院の機能低下を補うための対策が必要です。岐阜県では地域防災計画を立てており、当地域においても病院が機能を果たせないような状況ではこの計画に従った行動をとることになります。地域外からマンパワー、DMAT（災害派遣医療チーム）の派遣を受け、手術などを行うことのできる体制、当地域での治療が不可能な患者の地域外への搬送、この場合地理的にも陸路での搬送が困難なため重傷者のドクターヘリを使っての迅速な地域外への搬送が計画されています。一定期間診療を維持するのに必要な薬剤、物品の備蓄については、当地域では現在の財政難の折、具体的な方策は立っていません。地域住民の災害時対応訓練も重要です。地域防災計画でも『県民一人ひとりが、日頃から「自らの生命は自ら守る」、「みんなの地域はみんなを守る」という基本理念と正しい防災知識を身に付け、平素から災害に対する備えを心掛けることが必要である』としています。

下呂市立金山病院 院長 古田智彦